森の名手・名人シリーズ47

名人 長野 満（55）
岐阜県本巣市

聞き手 藤原 裕規
佐賀県立伊万里農林高等学校2年
平成28年取材

「森の名手・名人」とは、森に関わる仕事や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもってその業を極め、他の模範となっている達人で、毎年、全国で約100名が認定されています。岐阜県においては、現在、50名の「森の名手・名人」が認定されています。

この「森の名手・名人」を「森の"聞き書き甲子園"」に参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から誌面の関係上要点を抜粋したものです。なお、年齢、住所、学年は取材当時のものです。

林業（作業道開設等）
人生かけての道づくり

大きい現場になると書類も多くなるので、その辺が面倒くさいですね。書類にかかる時間は、はてしなくというか、いろんな仕事をしてるもんで、役所とか県が要求しているのを、時間で言うと、一つの現場で、およそ1週間～10日くらいはかかりますね。仕事を始めるまでにも1週間から10日かかって、終わってからもそれくらいの時間がかかって、始める前のほうが、1週間ではすまねぇーからなぁ。長かったら1か月くらいかかると思うでぇ。

どんな仕事でも言えるんやけど、軌道に乗せるまでが大変なもんで、軌道に乗っちまったらいいんやけど、始めるまでの段取りが色々あるもんで、ただ、道をつけるっていうわけじゃないから、地域住民へのあいさつから始まり、一番問題になるのが、お金やね。お金を払わなきゃやっていけないし、ただ、払うだけじゃだめなんで、お金にも高い安いの違いがあるから、後から困ったりとか、お金も自分で払うわけじゃないので、ある程度、会社にも利益がないと会社もやっていけないので、お金をもらう方はたくさん欲しいし、逆に、払う方は少なくしたいから、その辺の加減が難しいし、そういう人間とのやり取りするのも楽しいですね。

1. 仕事一つ一つの大切さ

30年くらい根尾開発の森林土木科の部署で働いています。根尾開発には、森林土木以外にも、森林整備、素材生産、造園、一般土木など多くの部署があります。根尾開発に入ろうと思ったのは、従兄弟が会社をやってるもんで、人が足らんもんで来てくれと言われて入ったのがきっかけです。

僕は今、山に道を作るという仕事で、設計から施工、最初から最後までの段取りを担当していて、現場は下請けさんにしてもらうもんでぇ、役所との打ち合わせをしたり、許可申請をしたり、業者さんを発注したり、施工中の管理でこれはいいよ、あれはだめよ、とかを言ったり、でき上がってから書類の提出とか許可申請などもしています。

2. 山に、道を作る

仕事の中で、一番している仕事は、山に道を作る（作業道）ということです。山に道を作るとは、全く人が歩く道ではないところに、車とか重機を入れれるようにするということです。そして木材を出したり、森林の管理、作業員さんが歩いて行かないように山に道を作っています。根尾開発は、森林経営計画というのがあって、それの中の一環でここに道をつけようか、どうやって木材を出そうか検討しながらやっていったり、他には、森林組合からは、頼まれて道を作っています。

道具は主に、重機やバックホーなどや丸太を積んだりする道具などがあります。他にも、山の場所によって使う道具は異なります。主に、仕事をしている地域は根尾地域、西濃地域です。

3. 今までに手掛けてきた作業道

今までに手掛けた作業道は、約75キロくらいで、1年間に多いときは、10キロ～20キロくらいで、少ないときは、3キロ～5キロくらいで、1キロ作るのに最後まですると、半年かかるでぇー。作業道を作る場所はいつも違って、10か所くらいあります。同じ場所で作業道作りがあるときも、それより先とか枝線を出すとかで、現場は、一つ一つ違うもんでぇー、作業道を作る前は、自分で山を歩いて道を決めて行くんでぇー。山も、自分で歩かないと、わからないことも多くって、山によって色々な方法があります。

例えば、丸太組工法といって、道路を作っていても雨、雪で路肩が傷みやすいので、路肩の壊れとか、崩壊を少しでもなくすために使う方法です。何年かすると丸太も腐ってしまうもんで10年20年あたりで元の山に戻るのが目的でしている方法です。

他にも、洗い越し工といって、金網の中に石を詰めて、水の流れを緩くしたり、水が流れてもその上を流れてきますよっていうやり方です。谷を横断するときに使われる工法で、林道作るなら、他の方法あるんやけど、作業道なら、こっちの方法が良いですね。たまに、ごみとかも流れてくるもんで、これなら、すっーと流れて、支障がないもんで、自分らは、この工法が多いなぁ。水量が少ない場所では、コンクリートをやらずにカゴだけを使ってやります。他にも洗い越し工に似ていて、カゴ枠工といった方法もあります。

洗い越し工

丸太組工法

カゴ枠工

カゴ枠工

4. 一つ一つの工夫

今している路網作設とは、一つの山があって木を収穫するには、どうやって道をつけたら一番効率が良いとか、木を伐採するときにどの辺に道があったほうが伐採しやすいとか現場に合った工法を取り入れ、創意工夫を行いながら、作業を進めていくことだと思います。

5. 作業道作りの三つの流儀

作業道作りは、山などによって良いとこや悪いとこなど色々あるもんで、それによってやり方や施工の方法を変えて上手く道を作ることです。

道作りでは、急な斜面や地面が緩いところもあるので、どうやって車を通らせるかというところがとても難しいです。田んぼみたいなところの道では、丸太を入れたり、砂利を入れたりして、地面を固定したりします。普通な道では、バックホーで山を削ってやれば道にはなります。

道作りをするうえで大切にしていることは、森林所有者の思いを大切にすること、所有者にも会社にも利益になること、利益がないと仕事もないし進んでいかないから利益を出すことは必要です。現場ごとに創意工夫を重ねること。

この三つを主に、大切にしています。自分が理想としている道は、壊れなくて、作業がしやすく、木材を出すとき搬出しやすい、みんなが使い勝手の良い道ができると、できたときにいいなと思うな。

6. 今までの経験

これまで、作業道作りをしてきて、クマが横を通ったりいろいろ動物に出会うのは日常茶飯事なもんで、そういうことにも気をやらないと、自分の命にもかかわるもんで、気を付けて作業道作りをしています。他にも、地域の人からは、道が汚くなるとか、やかましいとか、朝早い、夜遅いとかそういう苦情があることもあるもんでぇ、気を付けてやってるんやけど、凡ミスとかがあるもんで、そういうのが困ります。

作業自体は、困ることはないんやけど自然相手やもんで何があるかわからないので、その辺が困ります。作業道作りでは、なんだかんだ問題が出てくるもんで、最初から最後までスムーズにいく現場は10のうち1くらいしかないもんで、そういうのが苦労しています。

いつも苦労している問題は、主に役所から、色々な書類を出せって言われたり、許可申請とかそういうのを出したりするのが苦労しているとこかな。

7. 作業道作りの中のやりがい

今の仕事の中でのやりがいは、創意工夫することにより自分の思ったような、自分の個性が道に活かせるということです。図面に基づいて作りなさいっちゅうやつやないから、そういうところが良いなと思ってやってます。

今の仕事が一番良いと思ってるんで、自分の自由にしていいし、思ったようにできるもんで、今の仕事が一番いいかな。

名人 長野（ながの） 満（みつる）さんのプロフィール

●生年月日：昭和36年5月16日生まれ
●職業：林業（作業道開設等）
昭和58年に有限会社根尾開発へ入社以来、森林土木工事、とりわけ作業道開設に取り組み、独自の道づくり技術を駆使して、現地踏査から設計・施工管理、森林経営までを見通した作業道づくりを実践している。これまでに110路線以上開設し、同社の森林土木部長として作業道開設事業を牽引している。
また、県の「緑の雇用（フォレストワーカー・リーダー研修）」などの講師を務め、道づくりに携わる若手技術者の指導・育成とともに、技術の承継にも努めている。

※原本は長文のため、文章の一部を割愛しています。
【森の名手・名人編集担当
公益社団法人
岐阜県緑化推進委員会　専務理事　黒﨑隆司】